

みなさまのご愛顧へ感謝の気持ちを込めて、
もっとおいしく高品質なお米づくりを。

日頃からAiZ'S-RiCEにご高配を賜りまして誠にありがとうございます。今年も会津盆地は田植えの時期を迎えました。昨年は登熟期に高温が重なる等の影響で限られた量のご提供となったことから、協議会では生産者部会を開いて課題の抽出と、ガイドラインに即しながら栽培法の見直し等を実施。関係者一同、AiZ'S-RiCEの名にふさわしい、さらなる品質と収穫量の向上に努めてまいります。今後とも変わらぬご支援のほど、何とぞよろしくお願い申し上げます。

あいづの厳選米生産推進協議会

AiZ'S-RiCEの特徴

会津産コシヒカりは、昭和46年に始まった「食味ランキング」で、平成元年に「特A」のランクが創設されて以来、31年間で24回、平成25年から7年連続で「特A」を獲得しています。「AiZ'S-RiCE」は、その会津産コシヒカリ1等米の中から、食味値80点以上（玄米タンパク質含有率6.4%以下）のみを厳選しました。特別栽培ガイドラインに基づいて栽培し、会津清酒の酒粕を肥料として使用することで、稔り豊かに育てた美味しいお米です。また、世界的に禁止に向けて動いているグリホサート系除草剤及びネオニコチノイド系農薬を今年度から不使用とすることでさらなる品質の向上を目指しています。

寒暖差のある会津の気候

盆地特有の昼は暑く、夜になると涼しい寒暖の差が、アミノ酸の生成を促し、豊かな甘みのあるお米に育て上げます。



会津磐梯山の麓に広がる田園地帯。

会津清酒の酒粕の肥料

会津藩の肝煎、佐瀬与次右衛門が記した「会津農書」の伝統的な農法に基づき、会津清酒の酒粕を肥料に加え地力を高めています。



酒どころならではの酒粕による農法。

栽培法の見直しによる品質向上

生産者が集まり、昨年度の生育状況や品質、収穫量等を検証。農薬や化学肥料等の使用についてまとめた特別栽培ガイドラインに即しながら、栽培法を改めて見直しました。その結果、世界的に禁止に向けた動きが見られるグリホサート系除草剤及びネオニコチノイド系農薬の今年度からの不使用等を決定。さらなる安全性とおいしさを目指してまいります。



試行錯誤を繰り返しさらなる高みへ。

今年の気候と生育環境

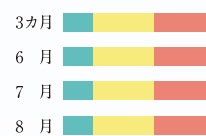
2019年12月から2020年2月は、冬型の気圧配置が続かず、全国的に寒気の流入が弱かったため、会津地方も記録的な暖冬となりました。平均気温は平年より2.2℃高い2.7℃、降水量は平年の89%で233mm。最深降雪量も平年58cmのところ、14cmしかなく、冬でも平野部は降雪が見られない日が続きました。3月、4月は比較的温かな日が続き、5月からの3カ月も、気温は平年並みかやや高い日が続く見込みで、降水量は概ね平年並みとなる予報です。

2019年12月～2020年2月の会津若松の気候

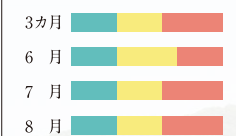
地点名	会津若松
平均気温(℃)	2.7
平年差(℃)	(+2.2)
降水(mm)	233.0
平年比(%)	(89)
日照時間(h)	244.6
平年比(%)	(99)
降雪深さ(cm)	62
平年値(cm)	(401)
最深積雪(cm)	14
平年値(cm)	(58)

向こう3カ月の気温、降水量の各階級の確率(%)

【気温】[東北地方]



【降水量】[東北地方日本海側]



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

※気象庁資料より

詳しい田植えレポートは裏面へ



一年一年が真剣勝負。 AiZ'S-RiCE一粒一粒に込められた生産者たちの想い。

5月17日(日)、会津盆地でAiZ'S-RiCEの田植えが行われました。

気候も、土も、苗も、同じ年は一年たりともない。それらと向き合い、品質を追求する生産者取材しました。

1 先祖代々受け継がれた土地で、今年も米を育む。

会津盆地といっても、それぞれの農家が先祖代々受け継いできた土地は、砂や粘土等の含有率が場所によって大きく異なります。生産者は、自分の土地の特徴はもちろん、冬から春にかけての天候や今後の予報、苗の生育状況等を考慮して、特別栽培ガイドラインに即しながら、肥料の配合や田植えの時期等を決めています。これら諸条件が複雑に絡み合い米の品質が決まっていくため、同じ土地、同じ品種であっても、一年一年がまさに一度限りの挑戦です。



先祖から受け継いできた広大な田園。

一年に一回しか作れない！
米づくりは自然相手の挑戦！



すくすくと育った苗
これから田んぼへ。

2 田起こし前に撒く酒粕の肥料で、生育の基礎を整える。

今年は4月下旬、田起こしを行う前の田んぼに「会津農書」に伝わる会津清酒の酒粕を発酵させた肥料を撒きました。自然由来の栄養を行き渡らせることで、化学由来の肥料の使用量を減らすことができます。安全性はもちろん、おいしさにも好影響が期待されます。一方、種は会津産コシヒカリの中でも実入りがよいものを厳選し、苗代で15cmほどの苗へと育て、田植えに備えます。

3 生産者の想いとともに、田に苗を植え付け。

いよいよ田植えです。昨年は登熟期に高温が重なり、タンパク質含有率が高くなりました。それを回避するために今年は遅植を実施。5月17日(日)、植え付けの深さや速度、株の間隔等、細やかな調整を行った上で、栄養を蓄えた土に苗を田植え機で植えていきます。「米は我が子のようなもの。元気に育ってほしい。それだけです」と生産者の安西靖男さんは語ります。

4 実りの秋へ向け、稲と向き合う毎日が始まる。

田植えは米づくりの大きな節目です。作業自体は数時間で終わりますが、そこから稲と向き合う毎日が始まります。稲の成長に合わせて水の管理や雑草対策等を行っていきます。収穫まで1日も田を訪れない日はないそうです。自然を相手とする農業の宿命で、豊作の年もあれば、そうでない年もあります。それでも、「うちの米がいちばんいい米だと今年も思いたい」と安西さん。米づくりの面白さと怖さ、その両方を知る生産者たち。今日も田んぼを訪れ、稲の成長を見守っています。



酒粕で地力を高めた田に苗を植えていく。

\\ AiZ'S-RiCEをつくる人 \\

AiZ'S-RiCEの栽培は今年で3年目。生産者が切磋琢磨しながら栽培することで、AiZ'S-RiCEはもちろん、会津産米全体を底上げしたい。昨年以上に、おいしい米をみなさんに届けるために稲と向き合っていきます。



会津若松市 安西 靖男さん

収穫までの約半年間、1日も欠かすことなく、稲の成長を見守っていく生産者たち。その様子をこれからもご紹介していきます。

お問い合わせ

あいづの厳選米生産推進協議会(事務局:会津若松市農政部農政課内)
〒965-8601 福島県会津若松市東栄町3-46
TEL:0242-39-1253 FAX:0242-23-8180

アイズライス



<https://aizs-rice.com/>